

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		<p>日々のミーティングの中で理念を意識してご利用者様一人ひとりにとって、それはどういう事なのか話し合いの場を設けていく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>管理者と職員が理念を共有し、実現できるようミーティングの中で具体化した話し合いをしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>気軽に立ち寄って頂いたり、認知症の方に関する相談などして頂けるよう、地域の窓口になるようにしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>町内会の回覧など回ってきており、参加できるものを見つけご利用者様と見学、参加していきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>ボランティアの受け入れなどを積極的におこなっており、地域住民や見学者の訪問に応えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>評価の結果を踏まえて、改善できる点を考え、会社・職員が一丸となってよりよいサービスを提供していきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議で、話された内容を職員全員に伝わるよう取り組んでいきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>必要ご利用者様には、支援できる体制は整っていますが、成年後見制度について、職員も理解できるよう、研修会などに参加していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も虐待が見過ごされる事がないよう、話し合いの場を持ち、防止に努めます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居の際には、グループホームの役割や入居用件など十分に説明し、納得して頂き、入居していただいています。解約時には、ご利用者様の希望、ご家族様の希望を伺い、十分に話し合っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者の意見、不満、苦情を記入できる意見ポストをわかりやすい場所に設置し、ご利用者の意見を反映できるよう、職員及び会社での話し合いの場を持っている。		ご利用者様に満足していただけるよう、話し合いの場を多く持ち、取り組んでいきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、担当スタッフよりご家族様に現在の様子を報告し、他に連絡や相談事など随時電話で連絡を取り合っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設け、意見、不満、苦情をだせるようにしているが、今年度は、新型インフルエンザの流行により、家族会は見合わせています。状況を見ながら家族会を再開する他、直接、管理者や職員に意見や不満など伺う機会を設けている。		ご家族様から伺った意見や苦情などは、ミーティングで話し合いをし、運営に反映させていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	随時、ユニット会議を開催、連絡ノートを活用しながら、個々の意見を聞いています。聞いた場合は、管理者会議で報告し、反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	レクリエーション、病院受診などの状況に応じ、管理者とスタッフの話し合いの上、人員の調整に努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人員が変わる場合は、スタッフ全員の声かけや気配りで少しでも、ご利用者様へのダメージが和らぐよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>会社内、外での研修を受ける機会を作っており、順番に参加できるようにしている。</p>	<p>中央区グループホーム・スタッフ研修会に出来る限り、スタッフ全員が参加できるようにとっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>札幌市グループホーム管理者連絡会議や中央区グループホーム管理者会議に出席し、ネットワーク作りや勉強会を通じてサービスの向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、現場にも来ており、業務内容や職員同士の人間関係を把握するよう努めている。</p>	<p>運営者は、現場へ足を運ぶ機会を増やし、職員と交流する機会が増えるよう努めたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果を把握している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から入居に至るまでは、実際に施設を見て頂き、直接ご説明すると共に、相談事や不安なことに対しては、その都度、電話などで対応し、納得して頂いております。安心してご入居していただけるよう、十分に話し合いをしています。</p>	<p>言葉の少ないご利用者の訴えを、どのように受け止めるか、気付きや観察の能力を高め、信頼関係を作りたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族様、来訪時には、困っている事、不安なこと、ご要望など、どんなに些細な事でも相談して頂けるよう、環境や話を聞く姿勢を考えながら、充分、伺っています。</p>	<p>ご利用者様やご家族様が、安心して入居できるよう、十分な話し合いの場を持ち、信頼関係作りを行っていききたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>施設も色々な形式があるので、その方の相談内容から、他、施設の方が適している見極めた時には、各施設の特性をご説明し、情報提供している。</p>		<p>相談を受けた時には、その方が、何を必要としているのかを、しっかりと見極め、情報を提供しながら、お話をお聞きしています。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>環境の変化に馴染めるように、ご自宅で使用していた愛用の品をお持ち頂いております。職員との信頼関係を作り、徐々に馴染めるようご家族様と相談しながらサービスを提供しています。</p>		<p>ご利用者様の生活歴などを参考にして、1日も早く馴染んでいただき、その方らしく生活してもらえるように、今後も支援していきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、一緒に穏やかに生活できるよう、その方の得意分野で力を発揮してもらい、感謝する関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご利用者様と一緒に生活できないご家族様の事情などを考えて、ご家族様と共に、より良い支援ができるよう、十分な話し合いの場を作り、良い関係を作っています。</p>		<p>ご家族様には、随時、相談事や連絡をしながら、より良い関係が築けるよう、継続していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>今まで共に生活してきたご利用者様とご家族様の事情について、入居時のアセスメントを基に理解し、より良い関係が築けるよう支援している。</p>		<p>入居後も、ご利用者様とご家族様が、より良い関係が築いていけるよう、支援していきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居前と変わらない生活をして頂けるよう、ご利用者様とご家族様と話し合い、希望を取り入れ、安心して生活して頂けるよう支援に努めている。</p>		<p>ご家族様とも相談しながら、出来る限り、ご利用者様の望みが叶うよう、支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者が孤立しないように会話やレクリエーションの際には、職員が間に入り、ご利用者様同士、良い関係が築けるよう支援している。		レクリエーションや日々の会話を通じて、ご利用者様同士、良い関係が保て、お互いに尊重しあえる関係作りを支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談事など、必要に応じて連絡をとっています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の表情や行動から、その時々のお意思をくみ取り、何を希望しているのか、ご利用者様の視点に立ち、話し合っている。		意思の表現が困難な方の、希望や意向をしっかりと受け止められるよう、観察力などの能力を高めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様、ご家族様から、これまでの生活歴を伺う他に、これまで利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員や病院の医療連携室、相談員と連携を図っています。		これまでの暮らしや身体状況、病気など情報収集し、入居後の支援に役立てていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身の状態変化を記録し、総合的に把握するように努めています。		心身の状態の変化を、早期に発見し対応していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、家族、必要な関係者と話し合い、介護計画を立て、評価、次の介護計画に繋げています。		画一的な介護計画ではなく、ご利用者様一人ひとりの生活の計画になるよう取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、心身の状況変化時には、その都度、必要な関係者と話し合い介護計画を見直し、作成しています。		現状を把握し、常にご利用者様一人ひとりに即した介護計画を作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ご利用者様一人ひとりの様子や心身の状況変化などを、個人日誌や介護日誌に記載し、評価、介護計画に反映させています。		スタッフ全員が情報を共有し、実践できるよう取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご利用者様、ご家族様の状況に応じて、可能な限り、通院や買い物支援をしている。		ご家族様と連携をとりながら、可能な限り、柔軟に支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設内でのレクリエーション時や外出の際などボランティアの皆様の協力を得ています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご利用者様の希望に応じて訪問理容、美容のサービスを支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の時に地域包括支援センターの職員と連携を図り、情報交換しています。		運営推進会議を定期的開催し、地域包括支援センターと連携を図り、総合的、かつ、長期的なケアマネジメントを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医は、近隣にあり、週に一度、往診に来て頂いています。他にご利用者様体調不良時に連絡すると、随時、往診してもらえます。又、ご家族様が希望する医療機関での受診は、ご家族様と連携し、可能な限り、受診の支援をしている。		地域にある病院との連携を強め、ご利用者様の急な変化に迅速に対応できるよう取組んでいきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診医は、認知症専門ではないが、医療に熱心で、ご利用者様やご家族様の話を熱心に聞いてくれ、指示や助言を頂いている。		往診医より、指示や助言は受けているが、それでも困難な事例は、心療内科受診の支援を行っています。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保しており、往診時に同行する看護師もご利用者様の健康状態を把握しています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	介護添書を活用し、情報交換に努めています。病院のソーシャルワーカーと連携を図り、カンファレンスに参加し、早期に退院できるよう支援しています。		入院時には、頻繁に見舞いに行くようにし、ご家族様とも情報交換しながら、回復状況を把握し、速やかに退院できるよう取組んでいきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご利用者様、ご家族様の意向と医師の診断を元に話し合い、全員で方針を共有するように努めています。出来るだけ早い段階から、検討していけるように体制を整えています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所で出来る範囲のケアを医師、看護師と話し合い、状態の変化がある事に、家族の気持ちに配慮した支援を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	施設内での生活情報を詳細に伝えられるように努め、住み替えによるダメージを防げるよう、考えられる問題点を話し合っています。		事情により移り住む際は、ご利用者様に関わる全ての関係者と話し合い、情報交換し支援していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩である、ご利用者様を敬う気持ちを持ち、常に一人ひとりの人格を尊重した、思いやりのある言葉や対応を心がけています。		意思表示が困難な方でも、出来る限りの方法を検討し、支援していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	「わかる事」「わからない事」を見極め、一人ひとりに合った言葉や道具を使い、説明し、自分で決めたり、納得しながら暮せるよう支援しています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課表はありますが、それにこだわらず、ご利用者様一人ひとりのペースに合わせた支援をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の着替えは、基本的に、ご利用者様本人の意思で決めており、職員は、必要な時に、お手伝いするようにしています。訪問理美容の際には、ご本人の希望を伺い、髪型を決めています。		自己決定がしにくいご利用者様には、職員と一緒に考え、ご利用者様の気持ちに沿った支援に取り組んでいきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	もやしの髭取りなど、食事の下準備を手伝ってもらい、食事中の会話内容にしたり、楽しく食事をして頂けるよう支援しています。又、一人ひとりの能力に合わせて片付けなど行っていただき、食事に対する満足感が得られるよう支援しています。		ご利用者様の負担にならない範囲で食事の支度や片付けを手伝って頂き、食事を楽しみながら、美味しく食べてもらえるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコを嗜む方はおりませんが、おやつに季節のフルーツや旬の物など日常的に楽しんで頂けるよう支援している。		おやつに季節のフルーツや旬の物など提供し、日常的に楽しんで頂いていますが、手作りの物が増えるよう取組んでいきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援しています。やむなく、オムツ使用になられたご利用者様には、交換の際、言葉や環境に配慮した支援をしている。		排泄の支援の時には、言葉や環境など、一人ひとりの人格を尊重した対応をしていきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴予定表により、入浴日の基本はありますが、その日の体調や希望の時間をお聞きし、出来る限り、要望に沿えるよう支援している。		愛用している入浴剤やシャンプー等、入浴を楽しんで頂けるよう支援していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を把握し、なるべく日中に身体を動かし、夜はぐっすり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者様一人ひとりの力が発揮されるように、出来そうなお手伝いをお願いし、感謝の言葉を伝えています。又、趣味をお持ちのご利用者様には、継続して行って頂けるよう支援しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望や力に応じてお金を所持しています。ご自分で金銭管理が出来ない方には、買い物の際、財布を持っていただき、ご自分で料金が支払えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	新型インフルエンザの流行により、今年度は、予防の為、外出を控えておりますが、施設玄関前まで散歩に出掛けたり、活動できる範囲内で支援している。		その時々状況にあわせ、活動できる範囲内で、一人ひとりの希望に沿った支援をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	人間的にも、遠出となると、全員が希望する所へ行くのは、難しいですが、ご家族様と相談しながら、出来る限り、支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を居室に設置されているご利用者様もおりますが、施設の電話も希望時には、いつでも利用出来るようになっております。手紙は、自由に出せるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様、知人、友人など、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問できるよう施設内の雰囲気作り心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を開き、身体拘束に関する職員の共通認識を図っています。又、日々の申し送りの中で自覚しない身体拘束がないか点検しています。		人間としての尊厳を常に考え、身体機能の低下に繋がる身体拘束をゼロにするように、その原因を取り除くケアに取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵はかけておらず、いつでも出入りが自由になっています。又、エレベーターや階段の扉は、開けるとチャイムが鳴るようになっており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜共に職員は、ご利用者様を見守りやすい位置にいて、全員の状況を把握するように努めています。又、夜間の排泄時には、見守りや誘導など安全に配慮している。		各居室、トイレなどにナースコールを設置し、使用できるご利用者様には、使用して頂いております。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者様一人ひとりの状況に合わせて、管理が過剰にならない程度に管理方法を決めています。危険だからといって全てのものを取り除くのではなく、注意を促すなど状況に合わせて対応しています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットや事故報告書は、各階に配布し、職員の共有認識を図っております。事故対策委員会を開き、事故を検証し事故防止策を検討しています。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	けが、骨折など応急手当の指導は、施設内研修を開き、看護師より指導を受けています。急変や事故発生時には、管理者、医師の指示の元、対応しています。日常的に想定できる急変や事故発生時の対応は職員間で話し合っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方の指導、設備点検も定期的に行われている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご利用者様本位の、暮らしを大切にしようという事を、事業所として取り組んでいるので、よく説明し、理解を得られるように努めています。		ご利用者様一人ひとりに起りうるリスクをご説明すると共に、対応策のご説明もしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況は、職員が把握しており、少しでも顔色や表情に変化が見られる時には、バイタルチェックを行い、記録をつけています。変化時には、管理者に報告をし、状況に合わせ、受診をおこなっています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は、ご利用者様一人ひとりの現病を把握しており、それぞれの薬の目的、用法、用量を正しく認識しています。薬の処方や用量が変更された時には、記録に残し、職員がわかりやすいようにしている。服薬時には、飲み込みまで支援しています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘の原因や体に及ぼす影響を理解し、おやつ、水分補給など工夫している。家事活動など取り入れて、体を動かす機会を作っています。下剤を使用しているご利用者様には、排便状況を確認しながら、医師の指示通り、調整しています。</p>	<p>自然排便に繋がるよう、排便状況を確認しながら、医師と相談し、取り組んでいきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて、職員が見守ったり、お手伝いをしています。就寝時には、義歯消毒の支援をしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日、ご利用者様一人ひとりの食事量と水分摂取量を記録して、職員が共有できるようにしています。低栄養にならないように、摂取量が少ない時には、食事内容や飲み物の種類を変える工夫をしています。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症についてのマニュアルがあり、いつでも職員が手に取り、読む事が出来ます。インフルエンザ予防注射は、ご利用者様、スタッフ全員が受けています。感染症予防の為に、施設内清掃時には、漂白剤やエタノールアルコールを活用しています。</p>	<p>感染症の発生を防ぐ為に、原因となりうる事柄を考え、予防に努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	献立、食材は、外注しており、毎朝、配達されます。食材は、すぐに職員が朝、昼、夕と仕分けして冷凍・冷蔵庫に保管し、新鮮で安全な食材の使用に心掛けています。毎日、調理器具、オシボリは消毒し、日々の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関をはいるとフロアーがあり、ソファー、テーブルなど設置し、気軽に来て頂けるようになっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用様が手作りの品を壁に飾ったり、季節の花を飾り、楽しんで頂いています。飾る場所は、その都度、ご利用様と相談し、決めています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂で新聞を読んだり、テレビを見ているご利用者様もいますが、自由に移動できないご利用者様には、その都度、過ごしたい場所をお聞きし、選んで頂いています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、馴染みの家具や普段から使い慣れている品を、持ってきて頂き、安心して居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、室温を記録しております。朝の掃除の際に換気をする他、空気清浄機、加湿器、扇風機なども活用し、気温と湿度の調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>建物の外回りを活用し、ご利用者様に楽しんで頂けるよう取組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ご利用者様とのコミュニケーション・ご家族様とのコミュニケーション・職員同士のチームワーク・情報の共有化が出来て、信頼関係が築けると考えております。これからも出来る事を積み重ね、ご利用者様が安心して快適に生活できるよう支援して行きたい。